

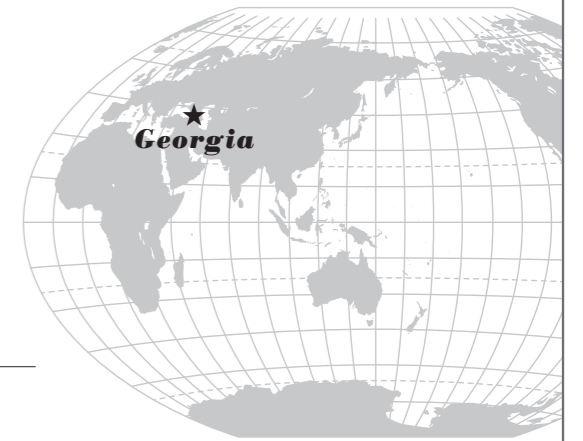
グルジア国、東西 ハイウェイ整備事業

新クタイバイパス工区及び、
新クタイバイパス～サムトレディア工区

株式会社竹中土木 作業所長

伊藤 寛一

Kanichi Ito



スリップフォーム式コンクリート舗設機械による施工



橋梁下部工施工状況



グルジア国及びプロジェクトの紹介

日本ではほとんど馴染みのないグルジア国は、西アジア北端、南コーカサス地方にあり、アジア・欧州・ロシア・中東の交差点の黒海の東岸に位置している。国土はアゼルバイジャン、トルコ、アルメニア、ロシアと国境を接しており、旧ソビエト連邦から一九九一年に独立した共和国である。グルジア国は独立した旧ソ連諸国の中でも民主化・市場経済化を積極的に進めており、歴史上、幾度となく他民族支配にさらされながらも、キリスト教信仰をはじめとする伝統文化を守り通してきた。またワインの生産



プロジェクト位置図

の盛んな国としても知られている。

二〇〇八年にはロシア国境と接する南オセチアを巡ってロシアとの軍事衝突があったが、その後は安定した政情が続いている。

当プロジェクトは、黒海とカスピ海、ひいては欧州とアジアを結ぶ重要な国際物流網である東西回廊のうち、グルジア国内を横断する東西ハイウェイのゼスタフオニ～サムトレディア間の道路・橋梁の整備を行うことで、輸送力増強により経済の発展を促し、紛争後の復興に貢献することを目的とした国際協力機構による円借款供与事業である。

工事概要

当工事の概要は、円借款供与対象区間の全三工区（総延長五八キロメートル）の内、第一工区（延長一七キロメートルの新設道路、橋梁一〇カ所）を二〇一二年一月より着工し、また第二工区（延長二六キロメートルの新設道路、橋梁八カ所）を同年七月より着工しており現在鋭意施工中である。第三工区（延長一五キロメートルの道路拡幅・改良、橋梁一〇カ所）についても国際競争入札を経て本年三月に工事契約を締結し、グルジア国政府道路局からの着工許可を待っている段階にある。

当社としてはグルジアでの初の工事施工であるため、当地に経験のあるイタリアのゼネコン

と協業して当プロジェクトに参画しており、第一工区を隣国アゼルバイジャンの協力会社と、また第二工区をグルジアの協力会社とともに施工を進めている。

トピックス

旧ソ連国の特徴として、独立から二〇年以上も経ってはいないが、今でも旧ソ連体制の影響が残っており、当プロジェクトの契約についても、監督官庁や施工業者においては、その内容について認識されていないところがある。

そのような一例として、プロジェクトにおける公用言語は英語と明記されているが、当プロジェクトに携わる一〇カ国以上の国籍を持つスタッフ、作業員のほとんどが旧ソ連圏の出身であり、書面以外の実質的な公用語はロシア語またはグルジア語となっている。そのため、会議や日々のコミュニケーションにはロシア語から英語への通訳を必要とする不便さがある。

また、技術仕様書では英国規格又は米国規格を規定しているが、現地コンサルタント会社で設計業務が行われたため、ロシア規格・基準による設計を用いており、当初は馴染みのないロシア規格に戸惑い、また英国、米国規格との整合性を確認しなければならぬという予期しない煩雑さに苦労することになった。

各々のスタッフ、作業員の異なる言語や経験・知識、思考方法の下で、品質、工程、安全管理を標準化し、徹底することはまだ道半ばではあるが、グルジアでの東西ハイウェイ事業における他の世銀、欧州開発銀行、アジア開発銀行供与プロジェクトと比較しても、円借款事業が高い評価を得られるよう、完成に向かってスタッフ一同総力を上げて努力していきたい。



舗装後の状況